

(仮訳)
第23回日中韓三カ国環境大臣会合 共同コミュニケ
2022年12月1日 (中国ホストによるビデオ会議)

前文

1. 黄潤秋中華人民共和国生態環境部長、西村明宏日本国環境大臣に代わって山田美樹環境副大臣、韓和眞大韓民国環境部長官は、第23回日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM23) のために、オンライン上で会談した。

日中韓における環境政策の最近の進捗

2. 三大臣は、TEMM22以降の各国の環境政策における最近の進捗を共有した。
黄生態環境部長は「グリーン・低炭素社会への移行とグローバル開発の推進、人類と自然の調和による美しい祖国の共同建設」、西村環境大臣に代わって山田環境副大臣は「日本の環境政策のレビューと展望」、韓環境部長官は「カーボンニュートラルと持続可能な開発に向けた韓国の取組：持続可能な未来に向けた融合と調和」を発表した。三大臣は、こうした三カ国の努力が北東アジアにおける持続可能な開発の達成や、国内、地域及び世界規模の環境問題の解決に貢献するという見解を共有した。

環境協力に係る三カ国共同行動計画 (2020-2025) に関連した環境協力の最近の進展

3. 三大臣は、2021年12月に採択された環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画 (2021年～2025年) (TJAP 2021-2025) の実施における進展についてレビューした。三大臣は、TJAP2021-2025の8つの優先分野の下での協力プロジェクトの進展に満足の意を表するとともに、三カ国の協力の推進に引き続き取り組む決意を示した。
4. 三大臣は、2022年9月に日本が開催した第9回大気汚染に関する日中韓三カ国政策対話 (TPDAP) において、三カ国の行政官及び専門家による

PM2.5やオゾンを含む大気汚染の防止と管理に関する政策及び技術の継続的な情報共有を歓迎した。三大臣は、第2期TPDAP行動計画（2021年～2025年）に沿ったTPDAP及び他の共同活動を評価するとともに、TPDAP実施計画（2016-2019）に基づき、実践的な成果を認識した。三大臣は、同政策対話を通じたこうした共同活動が近年の三カ国の大気環境改善に実質的に貢献しているという認識を共有した。三大臣は、2022年11月に韓国が開催した第15回黄砂ワーキンググループ（WG）I会合、2021年12月に韓国が、2022年に中国がそれぞれ開催した第14回及び第15回黄砂WGII会合の実施を通じて、黄砂WGI及びIIの中期行動計画（2020年～2024年）に基づき黄砂WG I及びIIの進捗を歓迎した。また、三大臣は、黄砂分野におけるモンゴルとの協力推進の意欲を表明し、モンゴルの関係機関とのより緊密な協力を期待した。三大臣は、黄砂WGIとIIの連携強化を奨励した。また、三大臣はDSSポータルウェブサイトをより有益なものにすることを奨励した。

5. 三大臣は、2022年4月に開催された第17回アジア水環境パートナーシップ（WEPA）年次会合を歓迎した。同会合では、生活排水のガバナンスの現状と分散型排水処理システムの現状と導入への課題について議論が行われた。
6. 三大臣は、2021年12月に日本が開催した第6回日中韓カーボンプライシングフォーラム、2022年2月に日本が開催した「アジアにおける気候変動と持続可能な開発政策の調整：定量化、統合、コベネフィットの推進」に関するワークショップ、及び2022年11月に中国が開催した日中韓炭素中立都市フォーラムを歓迎した。また、三大臣は三カ国が2022年8月に気候変動、カーボンニュートラル／ネットゼロ温室効果ガス排出、及び持続可能な復興に関する国内政策の情報交換を行ったことを歓迎した。三大臣は、汚染管理と炭素の排出削減の間の相乗効果を含む気候変動対策の分野における協力を推進する意思を表明した。
7. 三大臣は、三カ国がCOP15に関連した会議においてポスト2020生物多様性枠組に関する意見交換を行ったことを歓迎した。三大臣は、2023年に開催される第9回日中韓生物多様性政策対話（TPDBD）において、枠組の実施を協力して推進するために生物多様性の主流化に関連する課題を議論することを期待した。
8. 三大臣は、2022年11月に日本が開催した第16回日中韓化学物質管理政策対

話（TPDCM）及び化学物質管理専門家会合（TESCM）の成果を歓迎した。三大臣は、TESCMでの共同研究の進展に留意し、三カ国間で化学物質管理に関する最新の規制や優良事例を引き続き共有することを歓迎した。

9. 三大臣は、2021年12月に韓国が「グリーンエコノミーへの移行のための行動」をテーマとして開催した第6回日中韓環境ビジネス円卓会議（TREB）の結果を歓迎した。三大臣は、三カ国環境汚染防止協力ネットワークへの協力に留意し、同ネットワークができるだけ早期に立ち上げられることに期待した。2022年9月には日本によって日中韓エコラベル実務者会合が開催された。三大臣は、三カ国による共通の基準の開発に係る進捗を認識した。
10. 三大臣は、2021年12月に韓国によって「気候行動のためユースの声を高めよう」をテーマに開催された第22回ユースフォーラム、及び2022年11月に中国によって開催された第23回日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）シンポジウムを歓迎した。三大臣は、環境保護を推進する上でユースの参加を含む環境教育、意識向上及び市民参加の重要性を強調した。
11. 三大臣は、第5回国連環境総会再開セッション（UNEA5.2）やストックホルム+50、G20環境・気候大臣会合、国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（UNFCCC COP27）を含む主要な地域的及び世界的な環境会議において、ポストコロナにおけるグリーンリカバリー、気候変動への対応、及び持続可能な開発目標の達成という目標に向けた多国間協力の強化に関する有意義な議論が行われたことに留意した。
12. 三大臣は、2022年8月に日中韓三カ国協力事務局（TCS）が三カ国の環境省及びTEENと協力して開催した、環境教育と市民啓発に関する三カ国シンポジウムの成果を歓迎した。本シンポジウムでは、三カ国間の環境協力や教員と一般市民に対する教育が促された。三大臣は、TEMMの枠組の下でのTCSの貢献を認識するとともに、TJAP2021-2025の下でTCSと引き続き協力していくことを歓迎した。
13. 三大臣は、2022年11月に中国の中国環境科学研究院（CRAES）、日本の国立環境研究所（NIES）、韓国の国立環境科学院（NIER）との間で第19回日中韓三カ国環境研究機関長会合（TPM）が開催されたことを歓迎し、TEMMの枠組の中で、政策協力のための科学的なリファレンスを提供する三国間の研究協力を更に強化するよう奨励した。

地域的及び地球規模の主な環境課題に係る協力の推進

14. 三大臣は、世界が共同して、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、経済危機を含む複数の課題から回復し、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために取り組んでいることを確認した。三大臣は、それぞれの国情に照らして、気候変動、生物多様性の損失、環境汚染への対策を強化し、グリーンな低炭素開発／ネットゼロ経済・社会／カーボンニュートラルへの転換を加速し、人類と自然の調和を促進し、グリーンリカバリーと持続可能で包摂的な開発を促すために地球規模の環境ガバナンスを改善する努力を追求することの決意を再確認した。
15. 三大臣は、地域の大気質改善に貢献する東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）及び北東アジアクリーン・エア・パートナーシップ（NEACAP）の協力活動の進展を確認した。
16. 三大臣は、生物多様性条約（CBD）第15回締約国会議（COP15） 第二部の開催を歓迎し、支持した。三大臣は、生物多様性とそれが提供する生態系機能及びサービスが人類と地球の健康と福祉を支えることを強調しつつ、生物多様性と生態系の保全と回復のための行動を強化し、COP15が明確で実現可能で、かつ測定可能な目標とターゲット、条約に沿った必要な実施手段の提供、及びモニタリング・報告・レビューのための適切なメカニズムを含む、野心的で、達成可能で、バランスの取れた、効果的、強固で、変革的なポスト2020生物多様性枠組を採択できるよう、三カ国が共同して取り組む意思があることを再確認した。
17. 三大臣は、気候危機の緊急性を強調した。三大臣は、UNFCCC COP27の成功と「シャルム・エル・シェイク実施計画」を含むその成果、並びに「緩和の野心及び実施の規模を緊急に拡大するための作業計画」の採択、損失及び損害（ロス&ダメージ）に対応するための基金の設置を含めた、新たな資金面での措置を講じることの決定、適応の世界目標に関する2年間の作業計画である「グラスゴー・シャルム・エル・シェイク作業計画」の初年度の進捗及び適応の世界目標に関するフレームワーク策定を開始する決定を歓迎した。三大臣は、気候変動に関する目標やビジョンを具体的な政策、措置、行動に反映させ、関連する対話と交流を行うという実施行

動を呼びかけた。

18. 三大臣は、環境と開発に関するリオ宣言の原則や各国の事情や能力を考慮し、プラスチックのライフサイクル全体に対処する包括的なアプローチに基づいて、海洋環境を含むプラスチック汚染を終わらせる国際的な法的拘束力のある法的文書の作成を目指した、第5回国連環境総会再開セッション（UNEA5.2）で採択された決議を歓迎した。三大臣は、プラスチックのライフサイクル全体の管理を強化することの重要性を認識し、三カ国が採用している既存のプラスチック汚染対策を歓迎した。また、三大臣はそれぞれの国情に基づいてこれらの措置を強化し、プラスチック汚染と闘うための地域的及び世界的な行動を促進するための交流と協力を強化する意思を表明した。三大臣は、セミナーや他の活動を通じて、三カ国間の海洋ごみに関する政策及び情報の交換の継続と強化を奨励した。

19. 三大臣は、感謝を持って「3+X」協力の成果に留意した。三大臣は、国連持続可能な開発のための2030アジェンダの加速的实施を支援するため、気候変動及び海洋環境保全等の分野における「3+X」協力の可能性を引き続き模索する意思を示した。三大臣は、多国間主義に対するコミットメントを再確認し、2023年のG20環境大臣会合やUNFCCC COP28を含む今後の主要な地域及び世界の環境会議において、三カ国間の緊密な協力を奨励する意思を示した。

TEMM24

20. 三大臣は、TEMM24 を 2023 年に日本で開催することを決定した。開催日、開催場所は主催国によって提案され、中国及び韓国が確認する。

おわりに

21. 三大臣は、実りある TEMM23 の成果に満足の意を表した。西村明宏環境大臣と韓和眞環境部長官は、黄潤秋生態環境部長に対して、会議のホストに感謝の意を表した。

西村明宏
日本国 環境大臣

韓和眞
大韓民国 環境部長官

黄潤秋
中華人民共和國 生態環境部長